

理財部会長報告

会議名 第3回理財部会（オープン部会）

日時 2024年9月25日(水)
10:30～12:00

場所 秋田商工会議所
7階ホール80

出席者 理財部会員15名
他部会員9名
計24名



懇談 テーマ「今後の国内・県内の経済動向について」
ゲスト 一般財団法人秋田経済研究所
専務理事・所長 佐藤 雅彦 氏

現状分析：県内企業動向調査

(県内企業300社／内回答企業222社、調査時期：7月下旬～9月)

1. 業況判断 ～業績全般BSIによる分析

○2024年4月～9月実績見込→△5 (前期比±0)

原材料、燃料価格の高止まりや賃上げによる人件費増加の影響などを受け、回復に向けた動きが足踏みしている状況。

【上昇した業種】

- ①観光 (+53ポイント) →コロナ後の需要回復、宿泊単価の値上げが要因
- ②運輸 (+47ポイント) →コスト上昇分の価格転嫁が進んでいることが要因
- ③電子部品 (+40ポイント) →国内自動車メーカーの生産回復が要因

【下降した業種】

- ①酒造 (△57ポイント) →節約志向による外飲み需要の減退が要因
- ②建設 (△38ポイント) →コスト増による粗利率の低下が要因
- ③卸小売 (△21ポイント) →物価高による消費者の購買意欲低下が要因

○2024年10月～2025年3月見通し→5 (前期比+10ポイント)

原材料、燃料価格の高止まりや最低賃金の上昇等による人件費の増加などを懸念しつつも、需要の回復やコスト増加分の価格転嫁が進むなどの期待感から、改善する見通し。

【上昇見込みの業種】

- ①酒造 (+43ポイント) →新商品の市場投入が要因
- ②衣服縫製 (+26ポイント) →大口受注の増加が想定されることが要因
- ③建設 (+26ポイント) →大口受注の増加が想定されることが要因

【下降見込みの業種】

- ①観光 (△33ポイント) →インバウンドが昨年より少ない見込みであることが要因
- ②木材製品 (△17ポイント) →資材の高騰による住宅着工件数の減少が要因
- ③機械金属 (△8ポイント) →価格競争の激化による収益悪化が要因

2. 2024年度の設備投資計画

～前年度比5.2%増加の見通し

全業種の77%が設備投資を計画している。設備投資の内容は、「既存設備の維持・更新」が83%、人手不足による「合理化・省力化・効率化」が33%、「情報化・IT化」が23%と増えている。

3. 2024年度の賃上げ・ボーナス

～「賃上げを実施した(予定を含む)」企業は全産業で92.3%

～ボーナスは74.0%の企業が支給予定

全業種の78%が賃上げを実施しており、**今後実施予定を含めると92.3%**となる。また、**2024年冬のボーナス**については**74%の企業が支給すると回答**した。

今後の見通し

- ・ 産業トータルで見ると業況の変化は少ないように思えるが、業種によってかなりのバラツキがある。
- ・ 価格転嫁が進む製造業や運輸業では収益の改善が見られる。
- ・ サービス業では、消費者に受け入れられるかという不安から価格転嫁が進まず、業況が伸び悩んでいる傾向にある。
- ・ 全業種に共通する課題として、人手不足、物価高や最低賃金の引き上げなどによる経営コストの増加が挙げられる。
- ・ 企業は人材確保のため賃上げや賞与の支給を実施しているが、現状では生産性の向上を伴わない防衛的なものとなっているケースが多い。
- ・ 今後も、引き続き物価高や賃上げなどにより不透明な部分が多いが、設備投資が活発化していること、少しずつではあるが価格転嫁が進んでいることなどから、企業の業況は徐々に改善していくと推測される。